

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） スポーツ科学部 スポーツ科学科

【教育課程等】

1. <教育課程の体系性が不明確>

教育課程の体系性が不明確なため、以下を是正すること。（是正事項）

- (1) 養成する人材像として「地域スポーツ及び健康スポーツの指導者、中学校・高等学校における指導者（保健体育教員）及び地域の政策立案者（公務員）」の3つを掲げ、進路に応じた実習が3年次、4年次に配置されているが、実習の履修の前提となる科目が体系的に履修されているのか不明確であるため、カリキュラム取得の順序やそれが担保される仕組みを明らかとすること。…………… 1
- (2) 基幹科目に配置された科目はスポーツ科学の体系に基づいて高度化されているが、これらの科目が進路に応じた養成する人材像との関連が不明確なため明らかとすること。…………… 9
- (3) 上記（1）、（2）のことを説明する「スポーツ科学部の概念図」の資料を添付すること。…………… 10

2. <大学水準の教育内容か疑義>

下記の科目についてシラバス等を含め授業内容を改めること。（是正事項）

- (1) 「スポーツの測定評価」の講義内容に正しい図表の作成方法について講義するとされているが、大学教育にふさわしい水準として作表の仕方は疑義があるため、より適切な表現に改めること。また、授業科目名に評価が含まれるが、データの分析や解析方法、フィードバックなどの評価の活用方法が学ぶことができる授業計画か不明なため、明らかとするか必要に応じて修正すること。…………… 12
- (2) 「ヘルスサイエンス」と「衛生学・公衆衛生学」の科目の到達目標に「常識力（一般常識、マナー）」を掲げているが、常識力は科目名称にふさわしい到達目標とは考えられないため、授業科目にふさわしい到達目標や講義内容となるよう見直すこと。…………… 15

3. <授業内容の重複>

シラバスの授業計画を確認すると、必修科目で内容の重複が見られる。例えば、「スポーツ文化論」、「スポーツ哲学」及び「スポーツ社会学」では授業計画で「スポーツとジェンダー」が重複している。他にも必修科目内で「スポーツとメディア」、「スポーツとナショナリズム」等、授業計画の重複が見られるため、必修科目の授業計画を見直し、重複を改めること。（是正事項）…………… 17

4. <留学生の受入れ方針等が不明>

入学者選抜の概要で、留学生を入学対象者として想定しているのか不明なため明らかとすること。なお、留学生を入学対象としている場合、例えば日本語能力試験等の日本語の要件が設定されているのか、入学後の学修支援等が適切に構想されているのか、併せて明らかとすること。（是正事項）…………… 20

(是正事項) スポーツ科学部 スポーツ科学科

【教育課程等】

1. <教育課程の体系性が不明確>

教育課程の体系性が不明確なため、以下を是正すること。

- (1) 養成する人材像として「地域スポーツ及び健康スポーツの指導者、中学校・高等学校における指導者（保健体育教員）及び地域の政策立案者（公務員）」の3つを掲げ、進路に応じた実習が3年次、4年次に配置されているが、実習の履修の前提となる科目が体系的に履修されているのか不明確であるため、カリキュラム取得の順序やそれが担保される仕組みを明らかとすること。

(対応)

養成する人材像と進路に応じた実習の体系性、それが担保される仕組みについて、本学の考えを説明し、指摘のとおり、記載が簡略で不明確と思われる箇所の追記・修正を行う。

<説明>

まず、本学部の養成する人材像は次のとおりである。

「スポーツ科学部では、健康で文化的な生きがいのある生活を送ることができる社会を構築するために、スポーツ科学の理論的な知識に基づき、学校、地域及びスポーツが関連する領域において、今日のスポーツの意義や価値をふまえ、健康の維持増進、生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育又は地域の活性化に貢献できる人材を養成する。」

したがって、人材像を3つに大別するのであれば、スポーツ科学の理論的な知識に基づいた

- ① 「健康の維持増進」(地域スポーツ及び健康スポーツの指導者等)、
 - ② 「生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育」(中学校・高等学校における指導者(保健体育教員)等)、
 - ③ 「地域の活性化」(地域の政策立案者(公務員)等)
- に貢献できる人材を掲げていると言える。

次に、養成する3つの人材像に対応するため、進路に応じた実習でどのような能力を身につけるかを示す。

- ① 「健康の維持増進」(地域スポーツ及び健康スポーツの指導者等)
「スポーツ健康実習」において、幅広い人々に対して健康に寄与するスポーツの場における課題を克服する方策を考察し、企画・指導する能力を身につける。
- ② 「生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育」(中学校・高等学校における指導者(保健体育教員)等)
「スポーツ教育実習」において、教育現場や青少年の生涯スポーツの場における課題を克服する方策を考察し、企画・指導する能力を身につける。
- ③ 「地域の活性化」(地域の政策立案者(公務員)等)
「地域スポーツ実習」において、地域における多様なスポーツの場で生じる課題を克服する方策を考察し、企画・指導する能力を身につける。

次に、教育課程と進路に応じた養成する人材像との関連を示す。

【専攻導入科目】

専攻導入科目で身につける知識や技能はディプロマ・ポリシーに記載のとおり「**スポーツの意義や価値について理解している**」に対応している。

【専攻基幹科目（講義科目）】

専攻基幹科目（講義科目）で身につける知識や技能はディプロマ・ポリシーに記載のとおり「**スポーツ科学の理論的な知識を理解している**」に対応している。

本学部の養成する人材像に各ディプロマ・ポリシーを当てはめると次のようになる。

「スポーツ科学部では、健康で文化的な生きがいのある生活を送ることができる社会を構築するために、**スポーツ科学の理論的な知識（←専攻基幹科目（講義科目））に基づき、学校、地域及びスポーツが関連する領域において、今日のスポーツの意義や価値（←専攻導入科目）をふまえ、健康の維持増進、生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育又は地域の活性化に貢献できる人材（←3つの人材像）を養成する。**」

よって、専攻導入科目及び専攻基幹科目（講義科目）は、3つの人材像全てに必要な能力として位置づけており、全科目を各実習の履修前提としている。

【基幹科目（実技科目）】

基幹科目（実技科目）で身につける知識や技能は、ディプロマ・ポリシーに記載のとおり「**スポーツ科学の理論に基づいてスポーツを指導する能力を有している**」に対応し、3つの人材像全てにおいてスポーツを指導する能力が必要なことから、**共通して求められる能力として位置づけている。**

実技科目の考え方として、広くスポーツの技能及び指導する方法を修得できるようにするため、多種多様な実技を配置している。しかし、履修する専門実技の種目群（専門実技の導入、個人を単位とするスポーツ、集団を単位とするスポーツ、自然の中で活動するスポーツ）に偏りが出ないよう各群において選択必修（5科目5単位）科目を配置し、卒業要件単位としている。

基幹科目（実技科目）は、専門実技の導入種目と位置づけた「ジョギング・ウォーキング」「体づくり運動」を1年次に配置した。また、2年次での履修の集中を防ぐこと、及び基幹科目（講義科目）の学びを深化させた実技科目の履修に鑑み、配当年次を2・3年次としている。よって、3年次前期までの実習履修前提条件として、専攻基幹科目（実技科目）のうち、「ジョギング・ウォーキング」又は「体づくり運動」のいずれか1科目1単位を含む3科目3単位以上を履修することとしている。

なお、実技科目は学生の興味・関心に応じて5科目5単位を超えて履修することが可能であり、この卒業要件を超えて修得した単位は、自由選択単位（4単位）として卒業要件124単位内に含めることができる。

【専攻発展科目（選択必修科目・選択科目）】

専攻発展科目は、カリキュラムツリーで示しているとおり、選択必修科目と選択科目の2つに分かれている。

専攻発展科目の選択必修科目で身につける知識や技能は、ディプロマ・ポリシーの「**スポーツ科学の理論的な知識を理解している**」に対応し、自身のキャリア形成の方向性に必要となるスポーツ科学の理論的な知識を身につける科目としていることから、**3つの人材像ごとに異なる能力を身につけるための科目と位置づけている。**

専攻発展科目の選択科目で身につける知識や技能は、ディプロマ・ポリシーの「**生涯スポーツ時代に対応する青少年のスポーツ教育、高齢化時代に対応するスポーツによる健康の維持増進又**

は地域振興に活用する知識を有している」に対応する科目であり、ここで学ぶ能力は養成する 3 つの人材像ごとに異なる能力と位置づけている。

① 「健康の維持増進」(地域スポーツ及び健康スポーツの指導者等)

(選択必修科目)

この分野で活躍するためには、スポーツの医科学的側面(「健康とスポーツの医学 A」)、スポーツを行う身体の生理的側面(「スポーツ生理学」「スポーツ測定法」)、生涯スポーツ時代に対応する健康増進の意味(「健康と文化」)を理解することが求められる。よって、「健康とスポーツの医学 A」「スポーツ生理学」「スポーツ測定法」「健康と文化」のうちいずれか 2 科目 4 単位以上を「スポーツ健康実習」の履修前提条件としている。

(選択科目)

- 健康の維持増進に貢献する人材の養成に対応するために、幅広い人々に対して健康に寄与するスポーツの場における課題を克服する方策を考察し、企画・指導する能力を身体の生理学・医学的な機序から能力形成を図る視点(「スポーツ栄養学」「解剖生理学」「健康とスポーツの医学 B」)
- 幅広い人々に対してスポーツ・運動の具体的方法を教授することができる能力形成を図る視点(「スポーツ心理学実習」「スポーツ測定法実習」「運動処方論」「スポーツコーチング論」「スポーツ指導者論」「アスレティックトレーナー論」等)
- 人間の発達と加齢という過程の中でスポーツ・運動の意味を理解し、指導法の形成を図る視点(「加齢とスポーツ」「発育・発達とスポーツ」「健康運動プログラムの作成」「スポーツインストラクター指導論」等)

② 「生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育」(中学校・高等学校における指導者(保健体育教員)等)

(選択必修科目)

この分野で活躍するためには、一生涯の中における体育とスポーツの位置づけと機能・役割(「健康と文化」「生涯スポーツ論」「運動学」)を理解することが求められる。よって、「健康と文化」「生涯スポーツ論」「運動学」のうちいずれか 2 科目 4 単位以上を「スポーツ教育実習」の履修前提条件としている。

(選択科目)

- 生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育に貢献できる人材の養成に対応するため、教育現場や青少年の生涯スポーツの場における課題を克服する方策を考察し、企画・指導する能力を生涯学習及び広く文化・法からとらえる視点(「生涯学習論」「教育と文化」「教育と法」)
- スポーツ活動を身体の状態に関わらず理解する視点(「アダプテッドスポーツ論」)

③ 「地域の活性化」(地域の政策立案者(公務員)等)

(選択必修科目)

この分野で活躍するためには、地域の特性や地域に根付いた広義のスポーツ(「運動学」「スポーツ人類学」)を踏まえ、今日の社会的課題の解決に寄与する地域のスポーツ振興計画等を策定する(「スポーツ政策論」)能力が求められる。よって、「運動学」「スポーツ人類学」「スポーツ政策論」のうちいずれか 2 科目 4 単位以上を「地域スポーツ実習」の履修前提条件としている。

(選択科目)

- 地域の活性化に貢献できる人材の養成に対応するため、地域における多様なスポーツの場で生じる課題を克服する方策を考察し、企画・指導する能力を地域のスポーツ資源の発掘や多様なスポーツの展開を理解する視点(「文化資源とスポーツ」「レクリエーション論」「エコツーリズム論」)
- 地域の国際化及びグローバル時代の地域の活性化を理解する視点(「異文化とスポーツ」「国際交流とスポーツ」)

専攻発展科目(選択科目)は、当該科目と関連する3つの人材像の各領域と相互に関連性を持っている。また、学生の興味関心が変わった場合には、将来の進路に柔軟に対応できるようにしているため、3つの学外実習の前提条件には含めないこととしている。学生は、将来の職域を踏まえ、自己の目的や興味関心を絶えず考慮しながら受講科目を選択していくことが求められる。

そのため、科目履修を柔軟にしたことによる弊害を少なくするよう、綿密な履修指導が肝要であり、以下のとおり体系的な履修が担保されるようにしている。

- ① 1年次初めの履修ガイダンスにおいては、資料4「カリキュラムツリー」において上記の3つの学外実習に至る体系的、科目区分と配当年次による体系的なカリキュラム構成、3つの履修モデルプラン、更に新たに作成した図1「スポーツ科学部の学びの概念図」等に基づき、学習内容及び履修条件等について指導する。
- ② 2年次初めの履修ガイダンスにおいては、学外実習の目的、履修条件、実習先等について説明を行う。
- ③ 3年次初めの履修ガイダンスにおいては、3年次後期から始まる学外実習の説明会を担当者及び教務委員会が中心となり実施する。その際には、当該実習に関連した専攻発展科目の授業科目についても触れて履修指導を行う。例えば、前述した選択科目の視点のとおり、地域の活性化に貢献できる人材像の中でも、学生が自己の目的や興味関心により、地域の国際化に強みを出したい場合には「異文化とスポーツ」「国際交流とスポーツ」を履修するよう指導していく。

<追記・修正>

教育課程と進路に応じた養成する人材像との関連については、前述の考え方を「設置の趣旨等を記載した書類」にて示している。しかし今回の意見を踏まえて再確認を行ったところ、進路に応じた実習科目(「スポーツ健康実習」「スポーツ教育実習」「地域スポーツ実習」と養成する3つの人材像との関係及び実習の履修前提条件について簡略で不明確な記述となっていた。

そのため、3つの人材像に合致したそれぞれの人材を養成するために、実習でどのような能力を身につけ、そのために履修すべき科目は何であるか履修前提条件をより明確にするために、「教育課程等の概要」における「卒業要件及び履修方法」、「設置の趣旨等を記載した書類」の一部を修正する。

また、今回の意見を踏まえて「教育課程等の概要」における「卒業要件及び履修方法」において、卒業要件単位の記載が簡略で不明確と思われる箇所(第1外国語及び第2外国語別での表記及び専攻基幹科目での講義科目及び実技科目別での表記)についても併せて追記する。

【3つの学外実習の履修前提条件】

効果的に能力を身につけるために、実習前(3年次前期)までに履修すべき専門科目に関する履修条件を次のとおり記載する。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">① 専攻導入科目のすべて(7科目13単位)を履修していること② 専攻基幹科目(講義科目)のすべて(8科目16単位)を履修していること③ 専攻基幹科目(実技科目)のうち「ジョギング・ウォーキング」又は「体づくり運動」のいずれか1科目1単位を含む3科目3単位以上を履修していること④ 養成する3つの人材像に基づく進路に対応する以下の科目を履修していること |
|--|

<p>【スポーツ健康実習】 専攻発展科目の選択必修科目「スポーツ生理学」「スポーツ測定法」「健康とスポーツの医学A」「健康と文化」のうちいずれか2科目4単位以上</p> <p>【スポーツ教育実習】 専攻発展科目の選択必修科目「健康と文化」「生涯スポーツ論」「運動学」のうちいずれか2科目4単位以上</p> <p>【地域スポーツ実習】 専攻発展科目の選択必修科目「運動学」「スポーツ人類学」「スポーツ政策論」のうちいずれか2科目4単位以上</p>
--

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (7 ページ)

新	旧
<p>卒業要件及び履修方法</p> <p>○外国語科目…<u>必修8単位を含む10単位以上</u> 必修外国語…(第1外国語…「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」の4単位必修、日本語以外を母語とする学生は、英語に替えて「日本語ⅠA」「日本語ⅠB」「日本語ⅡA」「日本語ⅡB」の4単位必修、第2外国語…母語及び第1外国語以外の1言語4単位必修)</p> <p>選択必修外国語…第1外国語または第2外国語として選択したいずれか1言語2単位を選択必修 自由選択外国語科目の「日本語演習Ⅰ」「日本語演習Ⅱ」は日本語以外を母語とする学生のみ履修することができる</p> <p>○専攻基幹科目…<u>講義科目必修16単位、実技科目選択必修5単位</u>(「専門実技(ジョギング・ウォーキング)」「専門実技(体づくり運動)」より1単位、「専門実技(水泳)」「専門実技(体カトレーニング)」「専門実技(陸上競技)」「専門実技(器械運動)」「専門実技(フィットネスA)」「専門実技(フィットネスB)」「専門実技(柔道)」「専門実技(ダンス)」より1単位、「専門実技(サッカー)」「専門実技(バレーボール)」「専門実技(バスケットボール)」「専門実技(テニス)」「専門実技(ホッケー)」「専門実技(ラグビー)」より2単位、「専門実技(自然活動A)」「専門実技(自然活動B)」「専門実技(プロジェクト・アドベンチャー)」「専門実技(アクア・マリンスポーツ)」「専門実技(パドルスポーツ)」「専門実技(自然活動C)」「専門実技(スキー・スノーボード)」より1単位)を含む21単位以上</p> <p>○「<u>スポーツ健康実習」「スポーツ教育実習」「地域スポーツ実習」の履修条件…専攻導入科目のすべて(7科目13単位)を履修し、専攻基幹科目(講義科目)のすべて(8科目16単位)を履修し、専攻基幹科目(実技科目)のうち「ジョギング・ウォーキング」又は「体づくり運動」のいずれか1科目1単位を含む3科目3単位以上を履修した上で、進路に応じた科目として</u> 「スポーツ健康実習」は「スポーツ生理学」「スポーツ測定法」「健康とスポーツの医学A」「健康と文化」のうちいずれか2科目4単位以上を履修していること。</p>	<p>卒業要件及び履修方法</p> <p>○外国語科目 必修外国語…<u>いずれか1か国語選択4単位必修</u> 日本語以外を母語とする学生は、「日本語ⅠA」「日本語ⅠB」「日本語ⅡA」「日本語ⅡB」の4単位必修</p> <p>選択必修外国語…第1外国語または第2外国語として選択したいずれか1言語2単位を選択必修 自由選択外国語科目の「日本語演習Ⅰ」「日本語演習Ⅱ」は日本語以外を母語とする学生のみ履修することができる</p> <p>○専攻基幹科目…必修16単位、「専門実技(ジョギング・ウォーキング)」「専門実技(体づくり運動)」より1単位、「専門実技(水泳)」「専門実技(体カトレーニング)」「専門実技(陸上競技)」「専門実技(器械運動)」「専門実技(フィットネスA)」「専門実技(フィットネスB)」「専門実技(柔道)」「専門実技(ダンス)」より1単位、「専門実技(サッカー)」「専門実技(バレーボール)」「専門実技(バスケットボール)」「専門実技(テニス)」「専門実技(ホッケー)」「専門実技(ラグビー)」より2単位、「専門実技(自然活動A)」「専門実技(自然活動B)」「専門実技(プロジェクト・アドベンチャー)」「専門実技(アクア・マリンスポーツ)」「専門実技(パドルスポーツ)」「専門実技(自然活動C)」「専門実技(スキー・スノーボード)」より1単位を含む21単位以上</p> <p>(追加)</p>

<p>「スポーツ教育実習」は「健康と文化」「生涯スポーツ論」「運動学」のうちいずれか2科目4単位以上を履修していること。</p> <p>「地域スポーツ実習」は「運動学」「スポーツ人類学」「スポーツ政策論」のうちいずれか2科目4単位以上を履修していること。</p>	
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (12～13 ページ)

新	旧
<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(2) 教育課程の特色</p> <p>③専攻科目群</p> <p>ウ 実践教育</p> <p>これまでのスポーツ科学の理論的学修を基礎として、スポーツの実際を現場で体験することを意図し、実践教育科目として3年次後期に選択必修科目として配置している。</p> <p>これらの実習は、学校、地域及びスポーツが関連する領域において、健康の維持増進、生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育又は地域の活性化に貢献できる人材を養成することを目的に、学外での実践教育として、その人材養成の目的に応じて「スポーツ健康実習」「スポーツ教育実習」「地域スポーツ実習」を配置している。</p> <p><u>養成する3つの人材像に対応するために、これらの実習で身につける能力は、次のとおりである。</u></p> <p><u>「スポーツ健康実習」…「健康の維持増進に貢献できる人材」の養成に対応するため、幅広い人々に対して健康に寄与するスポーツの場における課題を克服する方策を考察し、企画・指導する能力</u></p> <p><u>「スポーツ教育実習」…「生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育に貢献できる人材」の養成に対応するため、教育現場や青少年の生涯スポーツの場における課題を克服する方策を考察し、企画・指導する能力</u></p> <p><u>「地域スポーツ実習」…「地域の活性化に貢献できる人材」の養成に対応するため、地域における多様なスポーツの場で生じる課題を克服する方策を考察し、企画・指導する能力</u></p> <p><u>そこで、上記実習において効果的に能力を身につけるために、実習前(3年次前期)までに履修すべき専門科目に関する履修条件を設定している。</u></p> <p>①専攻導入科目のすべて(7科目13単位)を履修していること</p> <p>②専攻基幹科目(講義科目)のすべて(8科目16単位)を履修していること</p> <p>③専攻基幹科目(実技科目)のうち「ジョギング・ウォーキング」又は「体づくり運動」のいずれか1科目を含む3科目3単位以上を履修していること</p> <p>④養成する3つの人材像に基づく進路に対応する以下の科目を履修していること</p>	<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(2) 教育課程の特色</p> <p>③専攻科目群</p> <p>ウ 実践教育</p> <p>これまでのスポーツ科学の理論的学修を基礎として、スポーツの実際を現場で体験することを意図し、実践教育科目として3年次後期に選択必修科目として配置している。</p> <p>これらの実習は、学校、地域及びスポーツが関連する領域において、健康の維持増進、生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育又は地域の活性化に貢献できる人材を養成することを目的に、学外での実践教育として、その人材養成の目的に応じて「スポーツ健康実習」「スポーツ教育実習」「地域スポーツ実習」を配置している。</p> <p>(追加)</p>

<p>「スポーツ健康実習」…専攻発展科目の選択必修科目「スポーツ生理学」「スポーツ測定法」「健康とスポーツの医学A」「健康と文化」のうちいずれか2科目4単位以上を履修していること</p> <p>「スポーツ教育実習」…専攻発展科目の選択必修科目「健康と文化」「生涯スポーツ論」「運動学」のうちいずれか2科目4単位以上を履修していること</p> <p>「地域スポーツ実習」…専攻発展科目の選択必修科目「運動学」「スポーツ人類学」「スポーツ政策論」のうちいずれか2科目4単位以上を履修していること</p>	
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (20 ページ)

新	旧
<p>6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (2) 履修指導方法 ①履修指導 エ 学外実習 学外実習(「スポーツ健康実習」「スポーツ教育実習」「地域スポーツ実習」)は、これまでの学修を実際の職域に応じた実践の場で体験することにより、これまでの学修の理解と今後必要となる学習内容を明確にすることを目標にしている。学生は将来の職域を踏まえ、自己の目的や興味関心を絶えず考慮しながら受講科目を選択していくことが求められることから、科目履修を柔軟にしたことによる弊害を少なくするよう、綿密な履修指導が肝要である。履修指導においては、体系的な履修が担保される仕組みとして、資料4「カリキュラムツリー」において上記の3つの学外実習に至る体系的、科目区分と配当年次による体系的なカリキュラム構成、3つの履修モデルプラン、「スポーツ科学部の学びの概念図」(9ページの図1参照)等に基づき、1年次からの履修ガイダンスで学習内容及び履修条件等について指導する。 2年次初めの履修ガイダンスにおいても、学外実習の目的、履修条件、実習先等について説明を行う。 3年次初めのガイダンスにおいては、3年次後期から始まる学外実習の説明会を担当者及び教務委員会が中心となり実施するが、その際には、当該実習に関連した専攻発展科目の授業科目についても触れて履修指導を行う。</p>	<p>6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (2) 履修指導方法 ①履修指導 (追加)</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料4) 「スポーツ科学部カリキュラムツリー」

新	旧
<p>資料4 スポーツ科学部カリキュラムツリー (資料4「補正後」参照)</p> <p>「コンディショニング論」から＜専門実技に関連する理論科目＞への矢印を追加 ＜専門実技に関連する理論科目＞から「スポーツ健康実習」への矢印を追加 「発育・発達とスポーツ」から「スポーツ健康実習」及び「スポーツ教育実習」への矢印を追加</p>	<p>資料4 スポーツ科学部カリキュラムツリー (資料4「補正前」参照)</p> <p>(追加)</p>

<p><u>「学校保健」から「スポーツ教育実習」への矢印を追加</u></p> <p><u>「身体文化論」から「スポーツ教育実習」への矢印を追加</u></p> <p><u>カリキュラムポリシー⑥<専攻発展科目>の背景色にピンク（スポーツ科学の理論的な知識を理解している）を追加</u></p>	
---	--

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 5) 「スポーツ科学部の卒業要件」

新	旧
<p>資料 5 スポーツ科学部の卒業要件</p> <p><u>「スポーツ健康実習」「スポーツ教育実習」「地域スポーツ実習」の履修条件…専攻導入科目のすべて (7 科目 13 単位) を履修し、専攻基幹科目 (講義科目) のすべて (8 科目 16 単位) を履修し、専攻基幹科目 (実技科目) のうち「ジョギング・ウォーキング」又は「体づくり運動」のいずれか 1 科目 1 単位を含む 3 科目 3 単位以上を履修した上で、進路に応じた科目として</u></p> <p><u>「スポーツ健康実習」は「スポーツ生理学」「スポーツ測定法」「健康とスポーツの医学 A」「健康と文化」のうちいずれか 2 科目 4 単位以上を履修していること。</u></p> <p><u>「スポーツ教育実習」は「健康と文化」「生涯スポーツ論」「運動学」のうちいずれか 2 科目 4 単位以上を履修していること。</u></p> <p><u>「地域スポーツ実習」は「運動学」「スポーツ人類学」「スポーツ政策論」のうちいずれか 2 科目 4 単位以上を履修していること。</u></p>	<p>資料 5 スポーツ科学部の卒業要件</p> <p>(追加)</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料 7) 「スポーツ科学部 3 つの履修モデルプラン」

新	旧
<p>資料 7 スポーツ科学部 3 つの履修モデルプラン</p> <p>イ. 中学校・高等学校における指導者 (保健体育教員) を目指す履修モデルプラン</p> <p>専攻発展科目 2 年次</p> <p><u>健康と文化</u></p>	<p>資料 7 スポーツ科学部 3 つの履修モデルプラン</p> <p>イ. 中学校・高等学校における指導者 (保健体育教員) を目指す履修モデルプラン</p> <p>専攻発展科目 2 年次</p> <p><u>スポーツの測定法</u></p>

(是正事項) スポーツ科学部 スポーツ科学科

【教育課程等】

1. <教育課程の体系性が不明確>

教育課程の体系性が不明確なため、以下を是正すること。

- (2) 基幹科目に配置された科目はスポーツ科学の体系に基づいて高度化されているが、これらの科目が進路に応じた養成する人材像との関連が不明確なため明らかとすること。

(対応)

是正事項1.(1)の対応において(2)基幹科目に配置された科目と進路に応じた養成する人材像との関連について説明していることから、(1)の内容と重複するが、基幹科目の該当部分について再掲する。

【専攻基幹科目(講義科目)】

専攻基幹科目(講義科目)で身につける知識や技能はディプロマ・ポリシーに記載のとおり「スポーツ科学の理論的な知識を理解している」に対応している。

本学部の養成する人材像に各ディプロマ・ポリシーを当てはめると次のようになる。

「スポーツ科学部では、健康で文化的な生きがいのある生活を送ることができる社会を構築するために、スポーツ科学の理論的な知識(←専攻基幹科目(講義科目))に基づき、学校、地域及びスポーツが関連する領域において、今日のスポーツの意義や価値をふまえ、健康の維持増進、生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育又は地域の活性化に貢献できる人材(←3つの人材像)を養成する。」

よって、専攻基幹科目(講義科目)は、3つの人材像全てに必要な能力として位置づけており、全科目を各実習の履修前提としている。

【基幹科目(実技科目)】

基幹科目(実技科目)で身につける知識や技能は、ディプロマ・ポリシーに記載のとおり「スポーツ科学の理論に基づいてスポーツを指導する能力を有している」に対応し、3つの人材像全てにおいてスポーツを指導する能力が必要なことから、共通して求められる能力として位置づけている。

実技科目の考え方として、広くスポーツの技能及び指導する方法を修得できるようにするため、多種多様な実技を配置している。しかし、履修する専門実技の種目群(専門実技の導入、個人を単位とするスポーツ、集団を単位とするスポーツ、自然の中で活動するスポーツ)に偏りが出ないよう各群において選択必修(5科目5単位)科目を配置し、卒業要件単位としている。

基幹科目(実技科目)は、専門実技の導入種目と位置づけた「ジョギング・ウォーキング」「体づくり運動」を1年次に配置した。また、2年次での履修の集中を防ぐこと、及び基幹科目(講義科目)の学びを深化させた実技科目の履修に鑑み、配当年次を2・3年次としている。よって、3年次前期までの実習履修前提条件として、専攻基幹科目(実技科目)のうち、「ジョギング・ウォーキング」又は「体づくり運動」のいずれか1科目1単位を含む3科目3単位以上を履修することとしている。

なお、実技科目は学生の興味・関心に応じて5科目5単位を超えて履修することが可能であり、この卒業要件を超えて修得した単位は、自由選択単位(4単位)として卒業要件124単位内に含めることができる。

(是正事項) スポーツ科学部 スポーツ科学科

【教育課程等】

1. <教育課程の体系性が不明確>

教育課程の体系性が不明確なため、以下を是正すること。

(3) 上記(1)、(2)のことを説明する「スポーツ科学部の概念図」の資料を添付すること。

(対応)

教育課程の体系性をより明確にするため、次頁の図1「スポーツ科学部の学びの概念図」を作成し、設置の趣旨等を記載した書類に添付する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (9 ページ)

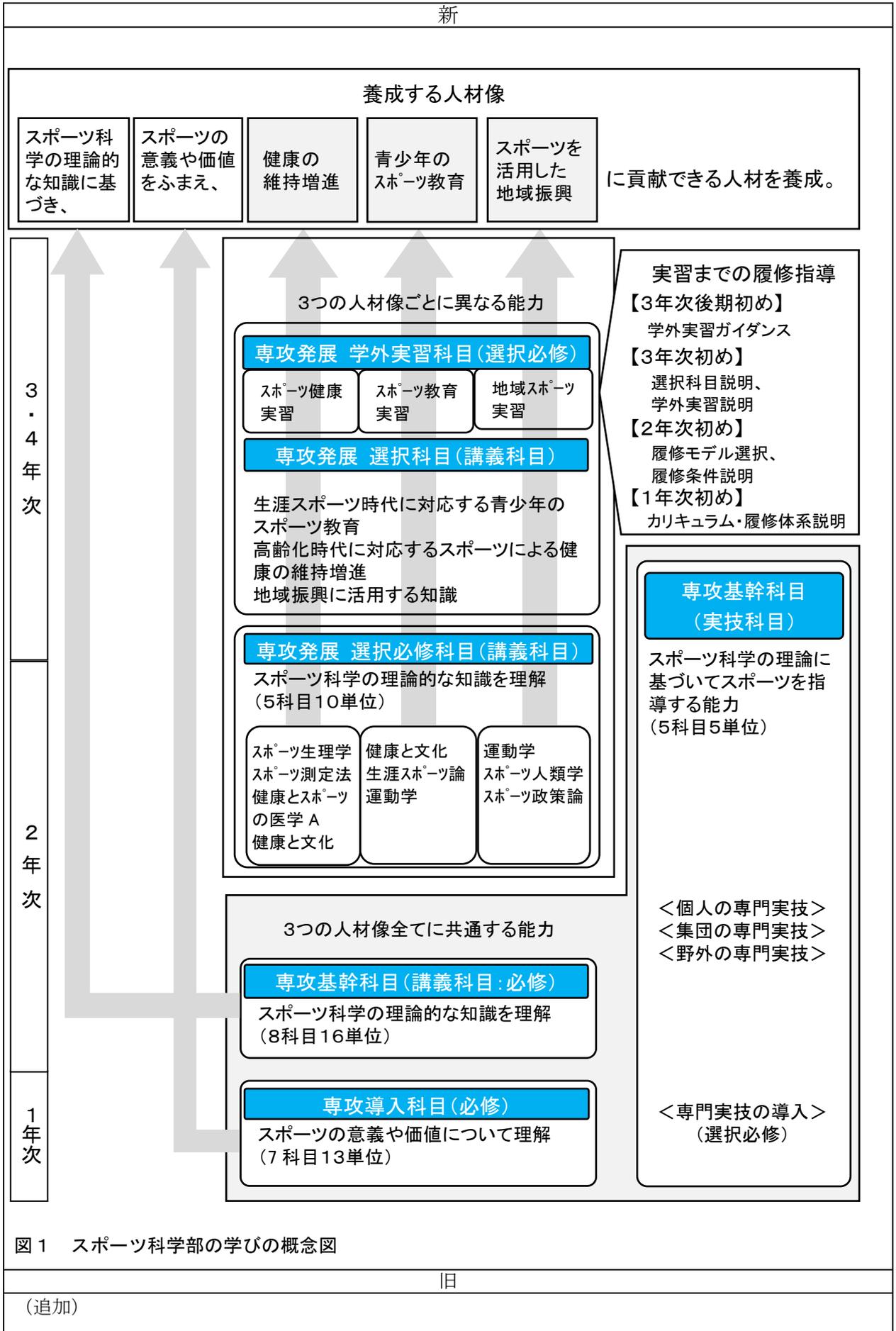


図1 スポーツ科学部の学びの概念図

(是正事項) スポーツ科学部 スポーツ科学科

【教育課程等】

2. <大学水準の教育内容か疑義>

下記の科目についてシラバス等を含め授業内容を改めること。

- (1) 「スポーツの測定評価」の講義内容に正しい図表の作成方法について講義するとされているが、大学教育にふさわしい水準として作表の仕方は疑義があるため、より適切な表現に改めること。また、授業科目名に評価が含まれるが、データの分析や解析方法、フィードバックなどの評価の活用方法が学ぶことができる授業計画か不明なため、明らかとするか必要に応じて修正すること。

(対応)

「スポーツの測定評価」の授業科目の概要及びシラバス記載から「正しい図表の作成方法」を削除し、「データの分析や解析方法、フィードバックなどの評価の活用方法」が学ぶことができることを授業計画で明らかにするために、修正し改める。

具体的には、授業科目の概要において、「パフォーマンスの決定要因、体力の構成要素、体力測定の意義、新体力テストの理論と実際および形態・体脂肪量測定法について講義する。」との記載を「パフォーマンスの決定要因、体力の構成要素、体力測定の意義、新体力テストの理論と実際および形態・体脂肪量測定法ならびに測定結果の評価法について講義する。」とし、「(略) 正しい図表の作成方法ならびに自然科学的なレポートの作成方法について講義する。」との記載を「(略) 図表を用いた結果のフィードバック、データ解析法ならびに自然科学的な考察と結果のまとめ方について講義する。」に修正し、「正しい図表の作成方法」の記載を削除し、「データの分析や解析方法、フィードバックなどの評価の活用方法」が学ぶことができることを明確に記載した。

シラバス(授業計画)においても「正しい図表の作成方法」を削除し、「データ分析」「解析法」「評価」「フィードバック」の表記を適宜追記修正し、授業科目の概要と同様に明確に記載した。

(新旧対照表) 授業科目の概要 (40 ページ)

新	旧
<p>スポーツの測定評価</p> <p>(授業形態)：講義形式 (授業目標)：スポーツ科学が真に科学的であるためには、それに関わる人々が科学的な思考方法と態度を身につけていなければならない。本講では、スポーツ活動及び身体運動に伴って生じる事象や効果を、自然科学的手法で測定評価する際に必要な基本的事項と理論的背景について講義する。体育・スポーツおよび健康づくりの指導者として活動するにあたっては、必要不可欠、かつ極めて基本的なものである。 (オムニバス方式/全15回) (① 吉野貴順/7回) パフォーマンスの決定要因、体力の構成要素、体力測定の意義、新体力テストの理論と実際および形態・体脂肪量測定法ならびに測定結果の評価法について講義する。 (⑤ 久我晃広/7回) 測定によって得られたデータを統計処理する際の基本的な考え方(正規分布、平均値と標準偏差、有意差検定、相関係数)および<u>図表を用いた結果のフィードバック、データ解析法</u>ならびに自然科学的な<u>考察と結果のまとめ方</u>について講義する。</p>	<p>スポーツの測定評価</p> <p>(授業形態)：講義形式 (授業目標)：スポーツ科学が真に科学的であるためには、それに関わる人々が科学的な思考方法と態度を身につけていなければならない。本講では、スポーツ活動及び身体運動に伴って生じる事象や効果を、自然科学的手法で測定評価する際に必要な基本的事項と理論的背景について講義する。体育・スポーツおよび健康づくりの指導者として活動するにあたっては、必要不可欠、かつ極めて基本的なものである。 (オムニバス方式/全15回) (① 吉野貴順/7回) パフォーマンスの決定要因、体力の構成要素、体力測定の意義、新体力テストの理論と実際および形態・体脂肪量測定法について講義する。 (13 久我晃広/7回) 測定によって得られたデータを統計処理する際の基本的な考え方(正規分布、平均値と標準偏差、有意差検定、相関係数)および<u>正しい図表の作成方法</u>ならびに自然科学的な<u>レポートの作成方法</u>について講義する。</p>

(① 吉野貴順・⑤ 久我晃広 / 1回) 共同 まとめは共同授業で行う。	(① 吉野貴順・⑬ 久我晃広 / 1回) 共同 まとめは共同授業で行う。
---	---

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (194 ページ)

新	旧
<p>スポーツの測定評価</p> <p>1. 講義内容 (略) そのため本講義では、スポーツ活動及び身体運動に伴って生じる事象や効果を自然科学的手法で測定評価する際に必要な、基本的事項と測定の理論的背景および統計処理方法ならびに<u>データ分析と評価方法</u>について、<u>新体力テストを教材として講義する。</u> (略)</p> <p>2. 到達目標 スポーツ・身体運動における測定の意義、測定の理論的背景、正確なデータ収集法ならびにデータ処理および評価法に関する基本的事項を理解し、<u>新体力テストや形態測定の方法や意義</u>について理解することを目的とする。 (略)</p> <p>3. 卒業認定・学位授与方針との関連 この科目は、特に、スポーツ科学部のディプロマ・ポリシー②「スポーツ科学の理論的な知識を理解している」と関連し、スポーツを科学的に測定・分析し、得られた結果を<u>評価し</u>、指導現場で活かすことができる基礎的能力を養う。</p> <p>6. 授業外における学習方法及び必要な時間 (略) また、演習において得られたデータを集計し表やグラフを作成し、<u>分析</u>すること、あるいは提出すべき課題を作成すること (2.0h)。 (略)</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 スポーツの競技成績を決定する要因と<u>その測定と評価</u>：吉野担当</p> <p>第2回 体力の構成要素と体力・運動能力を測定することの意義：吉野担当</p> <p>第3回 新体力測定の意義と測定の理論的背景および<u>結果の評価方法</u>：吉野担当</p> <p>第4回 握力、長座体前屈、立幅跳、反復横跳に関する測定の理論と実践<u>および評価</u>：吉野担当</p> <p>第5回 ハンドボール投げ、上体おこしに関する測定の理論と実践<u>および評価</u>：吉野担当</p> <p>第6回 シャトルラン、50m走に関する測定の理論と実践<u>および評価</u>：吉野担当</p> <p>第7回 体脂肪、形態測定に関する測定の理論と</p>	<p>スポーツの測定評価</p> <p>1. 講義内容 (略) そのため本講義では、スポーツ活動及び身体運動に伴って生じる事象や効果を自然科学的手法で測定評価する際に必要な、基本的事項と測定の理論的背景および統計処理方法ならびに<u>正しい図表の作成方法</u>について講義する。 (略)</p> <p>2. 到達目標 スポーツ・身体運動における測定の意義、測定の理論的背景、正確なデータ収集法ならびにデータ処理法に関する基本的事項を理解し、<u>新体力測定や形態測定の実用的な測定の原理</u>や意義について理解することを目的とする。 (略)</p> <p>3. 卒業認定・学位授与方針との関連 この科目は、特に、スポーツ科学部のディプロマ・ポリシー②「スポーツ科学の理論的な知識を理解している」と関連し、スポーツを科学的に測定・分析し、得られた結果を指導現場で活かすことができる基礎的能力を養う。</p> <p>6. 授業外における学習方法及び必要な時間 (略) また、演習において得られたデータを集計し表やグラフを作成すること、あるいは提出すべき課題作成すること (2.0h)。 (略)</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 スポーツの競技成績を決定する要因と<u>は何か</u>：吉野担当</p> <p>第2回 体力の構成要素と体力・運動能力を測定することの意義：吉野担当</p> <p>第3回 新体力測定の意義と測定の理論的背景：吉野担当</p> <p>第4回 握力、長座体前屈、立幅跳、反復横跳に関する測定の理論と実践：吉野担当</p> <p>第5回 ハンドボール投げ、上体おこしに関する測定の理論と実践：吉野担当</p> <p>第6回 シャトルラン、50m走に関する測定の理論と実践：吉野担当</p> <p>第7回 体脂肪、形態測定に関する測定の理論と</p>

実践および評価：吉野担当	実践：吉野担当
第 8 回 統計の基礎①科学的なデータ <u>解析法</u> と統計の必要性：久我担当	第 8 回 統計の基礎①科学的なデータ <u>の見方</u> と統計の必要性：久我担当
第 9 回 統計の基礎②正規分布とは：久我担当	第 9 回 統計の基礎②正規分布とは：久我担当
第 10 回 統計の基礎③平均値と標準偏差の意味と計算方法：久我担当	第 10 回 統計の基礎③平均値と標準偏差の意味と計算方法：久我担当
第 11 回 統計の基礎④有意差検定の必要性とその計算方法：久我担当	第 11 回 統計の基礎④有意差検定の必要性とその計算方法：久我担当
第 12 回 統計の基礎⑤相関関係・相関係数の意味とその計算方法：久我担当	第 12 回 統計の基礎⑤相関関係・相関係数の意味とその計算方法：久我担当
第 13 回 統計の基礎⑥エクセルを用いた平均値、標準偏差、有意差検定、相関係数の求め方：久我担当	第 13 回 統計の基礎⑥エクセルを用いた平均値、標準偏差、有意差検定、相関係数の求め方：久我担当
第 14 回 <u>図表を用いた結果のフィードバック</u> と自然科学的なレポートの作成方法：久我担当	第 14 回 自然科学的なレポートの作成方法と <u>正しい図表の作り方</u> ：久我担当
第 15 回 まとめ：久我／吉野担当	第 15 回 まとめ：久我／吉野担当

(是正事項) スポーツ科学部 スポーツ科学科

【教育課程等】

2. <大学水準の教育内容か疑義>

下記の科目についてシラバス等を含め授業内容を改めること。

- (2) 「ヘルスサイエンス」と「衛生学・公衆衛生学」の科目の到達目標に「常識力（一般常識、マナー）」を掲げているが、常識力は科目名称にふさわしい到達目標とは考えられないため、授業科目にふさわしい到達目標や講義内容となるよう見直すこと。

(対応)

「ヘルスサイエンス」のシラバスと「衛生学・公衆衛生学」の授業科目の概要及びシラバス記載から「常識力（一般常識、マナー）」の到達目標を削除し、授業科目にふさわしい到達目標や講義内容となるよう、修正し改める。

具体的には、「ヘルスサイエンス」のシラバスの達成目標に含まれる養成する能力要素から「常識力（一般常識、マナー）」を削除し、「情報収集力、理解力」に修正し、授業科目にふさわしい到達目標となるように明確に記載した。

また、「衛生学・公衆衛生学」については、授業科目の概要及びシラバスの記載から「常識力」「一般常識、マナー」を削除し、「理解力」に、更に「基礎知識」を削除し、適宜「保健体育科教育に必要な（となる）知識」に修正し、授業科目にふさわしい到達目標や講義内容となるように明確に記載した。

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (185 ページ)

新	旧
<p>ヘルスサイエンス</p> <p>2. 到達目標 健康及び病気に関する基礎的な知識を身につけること、また、食事やスポーツ、睡眠など普段行っている行動が、健康にどのようにかかわっているのかを理解することを目的とする。 養成する能力要素:<u>情報収集力、理解力</u></p> <p>3. 卒業認定・学位授与方針との関連 この科目は、ディプロマ・ポリシー(全学部)の「基礎的な力」及びスポーツ科学部ディプロマ・ポリシー①の「スポーツの意義や価値について理解している」と関連しており、現代社会を生きるうえで必要な基礎的知識として、健康に関する知識および、食事・スポーツ・休息との関わりを理解することを目的としている。</p>	<p>ヘルスサイエンス</p> <p>2. 到達目標 健康及び病気に関する基礎的な知識を身につけること、また、食事やスポーツ、睡眠など普段行っている行動が、健康にどのようにかかわっているのかを理解することを目的とする。 養成する能力要素:<u>常識力(一般常識、マナー)</u></p> <p>3. 卒業認定・学位授与方針との関連 この科目は、ディプロマ・ポリシー(全学部)の「基礎的な力」及びスポーツ科学部ディプロマ・ポリシー①の「スポーツの意義や価値について理解している」と関連しており、現代社会を生きるうえで必要な基礎的知識として、健康とはに関する知識および、食事・スポーツ・休息との関わりを理解することを目的としている。</p>

(新旧対照表) 授業科目の概要 (54 ページ)

新	旧
<p>衛生学・公衆衛生学</p> <p>(授業計画の概要):<u>保健体育科教育に必要な知識としての疫学、人口統計・衛生統計を学ぶ。次に各論として対象別(母子・学童・成人(主に労働者)・高齢者など)に行われる衛生・公衆衛生活動について学ぶ。さらに、現代社会で特に多くなってきている生活習慣病、メタボリック症候群の予防、健康増進の取り組みについても学ぶ。</u></p>	<p>衛生学・公衆衛生学</p> <p>(授業計画の概要): <u>基礎知識としての疫学、人口統計・衛生統計を学ぶ。次に各論として対象別(母子・学童・成人(主に労働者)・高齢者など)に行われる衛生・公衆衛生活動について学ぶ。さらに、現代社会で特に多くなってきている生活習慣病、メタボリック症候群の予防、健康増進の取り組みについても学ぶ。</u></p>

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (251 ページ)

新	旧
<p>衛生学・公衆衛生学</p> <p>1. 講義内容 (略) <u>保健体育科教育に必要な知識</u>として疫学及び人口統計・衛生統計、各論として対象別(母子・学童・成人(主に労働者)・高齢者など)に行われる衛生・公衆衛生活動、さらに、現代社会で特に多くなってきている生活習慣病、メタボリック症候群の予防、健康増進の取り組みについて学ぶ。</p> <p>2. 到達目標 (1) <u>保健体育科教育に必要な衛生学及び公衆衛生学の知識</u>を身に付ける。 (2) 現代社会で罹りやすい疾病及びその予防法を理解する。 (3) 生活習慣病予防を実践・指導できるようになる。 養成する能力要素: <u>情報収集力、理解力、行動力・実行力、問題解決能力</u></p> <p>3. 卒業認定・学位授与方針との関連 この科目は、ディプロマ・ポリシー(スポーツ科学部)の⑤「生涯スポーツ時代に対応する青少年のスポーツ教育、高齢化時代に対応するスポーツによる健康の維持増進又は地域振興に活用する知識を有している」と関連しており、健康に関する<u>専門的な知識</u>を身につけ、それを生活管理や保健体育教育の場で活かしていく方法を学ぶことで、行動に移す力を養います。</p> <p>7. 成績評価方法 学期末試験 公衆衛生の知識や現代社会で罹りやすい疾病及びその予防法についての理解度を問う問題を出題します。</p>	<p>衛生学・公衆衛生学</p> <p>1. 講義内容 (略) <u>基礎知識</u>として疫学、人口統計・衛生統計、各論として対象別(母子・学童・成人(主に労働者)・高齢者など)に行われる衛生・公衆衛生活動、さらに、現代社会で特に多くなってきている生活習慣病、メタボリック症候群の予防、健康増進の取り組みについて学ぶ。</p> <p>2. 到達目標 (1) 衛生学及び公衆衛生学の<u>基礎知識</u>を身に付ける。<u>(常識力)</u> (2) 現代社会で罹りやすい疾病及びその予防法を理解する。<u>(情報収集力、問題解決能力)</u> (3) 生活習慣病予防を実践・指導できるようになる。<u>(行動力)</u> 養成する能力要素: <u>情報収集力、行動力・実行力、問題解決能力、常識力(一般常識、マナー)</u></p> <p>3. 卒業認定・学位授与方針との関連 この科目は、ディプロマ・ポリシー(スポーツ科学部)の⑤「生涯スポーツ時代に対応する青少年のスポーツ教育、高齢化時代に対応するスポーツによる健康の維持増進又は地域振興に活用する知識を有している」と関連しており、健康に関する<u>基礎的な知識</u>を身につけ、それを生活管理や保健体育教育の場で活かしていく方法を学ぶことで、行動に移す力を養います。</p> <p>7. 成績評価方法 学期末試験 公衆衛生の<u>基礎知識</u>や現代社会で罹りやすい疾病及びその予防法についての理解度を問う問題を出題します。</p>

(是正事項) スポーツ科学部 スポーツ科学科

【教育課程等】

3. <授業内容の重複>

シラバスの授業計画を確認すると、必修科目で内容の重複が見られる。例えば、「スポーツ文化論」、「スポーツ哲学」及び「スポーツ社会学」では授業計画で「スポーツとジェンダー」が重複している。他にも必修科目内で「スポーツとメディア」、「スポーツとナショナリズム」等、授業計画の重複が見られるため、必修科目の授業計画を見直し、重複を改めること。

(対応)

シラバスの授業計画でタイトルの重複が見られる必修科目の「スポーツ文化論」、「スポーツ哲学」及び「スポーツ社会学」について、各科目の学問的な視点から各々の事象を捉える内容の相違があるにも関わらず、タイトルが重複し、内容の重複と見られることからシラバスの授業計画を見直し、以下のとおり重複を修正し改める。

「スポーツとジェンダー」

授業科目名	新	旧
スポーツ文化論	第 6 回 <u>多民族社会のスポーツの機能</u>	第 6 回 <u>スポーツとジェンダー</u>
スポーツ哲学	第 12 回 現代スポーツの周辺⑥：スポーツとジェンダー	第 12 回 現代スポーツの周辺⑥：スポーツとジェンダー
スポーツ社会学	第 8 回 スポーツと政治 (3)：スポーツと <u>多様性社会</u>	第 8 回 スポーツと政治 (3)：スポーツと <u>ジェンダー</u>

「スポーツとメディア」

授業科目名	新	旧
スポーツ文化論	第 3 回 <u>メディアの発達とスポーツの変化</u>	第 3 回 <u>スポーツによるメディアの影響</u>
スポーツ哲学	第 11 回 現代スポーツの周辺⑤：スポーツと <u>報道—その光と影—</u>	第 11 回 現代スポーツの周辺⑤：スポーツと <u>メディア</u>
スポーツ社会学	第 10 回 スポーツと経済 (2)： <u>メディアスポーツとスポーツの価値</u>	第 10 回 スポーツと経済 (2)： <u>スポーツとメディア</u>

「スポーツとナショナリズム」

授業科目名	新	旧
スポーツ文化論	第 5 回 <u>国民形成としてのスポーツの機能</u>	第 5 回 <u>スポーツと政治・権力</u>
スポーツ哲学	第 7 回 現代スポーツの周辺①：スポーツと <u>イズム (ism) —ナショナリズムの超克—</u>	第 7 回 現代スポーツの周辺①：スポーツと <u>ナショナリズム</u>
スポーツ社会学	第 6 回 スポーツと政治 (1)：スポーツとナショナリズム	第 6 回 スポーツと政治 (1)：スポーツとナショナリズム

「スポーツと暴力・体罰」

授業科目名	新	旧
スポーツ哲学	第 9 回 現代スポーツの周辺③：スポーツと暴力・体罰	第 9 回 現代スポーツの周辺③：スポーツと暴力・体罰
スポーツ社会学	第 4 回 スポーツと教育 (2)：規律訓練的権力と <u>身体の管理</u>	第 4 回 スポーツと教育 (2)：規律訓練的権力と <u>体罰の問題</u>

「スポーツとグローバリゼーション」

授業科目名	新	旧
スポーツ文化論	第12回 <u>グローバル化とマージナルスポーツ</u>	第12回 <u>スポーツのグローバル的展開</u>
スポーツ社会学	第12回 スポーツと現代社会(1)：スポーツとグローバリゼーション	第12回 スポーツと現代社会(1)：スポーツとグローバリゼーション

「スポーツと地域社会」

授業科目名	新	旧
スポーツ文化論	第9回 <u>地域社会のスポーツの機能</u>	第9回 <u>地域社会のスポーツの役割</u>
スポーツ社会学	第13回 スポーツと現代社会(2)：スポーツと地域コミュニティ	第13回 スポーツと現代社会(2)：スポーツと地域社会

(新旧対照表) 授業科目の概要 (39 ページ)

新	旧
<p>スポーツ文化論</p> <p>(授業計画の概要)：スポーツは、現代社会においてローカルの遊びからグローバル的<u>競技</u>へと拡大され、そして政治、経済、健康、教育、観光、ナショナリズムなどの側面とも強いかかわりをもつものである。</p>	<p>スポーツ文化論</p> <p>(授業計画の概要)：スポーツは、現代社会においてローカルの遊びからグローバル的<u>協議</u>へと拡大され、そして政治、経済、健康、教育、観光、ナショナリズムなどの側面とも強いかかわりをもつものである。</p>

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (188 ページ)

新	旧
<p>スポーツ文化論</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 スポーツ文化研究の視点と方法</p> <p>第2回 近代スポーツの成立と発展</p> <p>第3回 <u>メディアの発達とスポーツの変化</u></p> <p>第4回 資本主義とスポーツ</p> <p>第5回 <u>国民形成としてのスポーツの機能</u></p> <p>第6回 <u>多民族社会のスポーツの機能</u></p> <p>第7回 スポーツと身体</p> <p>第8回 スポーツと教育</p> <p>第9回 <u>地域社会のスポーツの機能</u></p> <p>第10回 スポーツの応援文化</p> <p>第11回 スポーツと文化変容</p> <p>第12回 <u>グローバル化とマージナルスポーツ</u></p> <p>第13回 スポーツをめぐる社会問題</p> <p>第14回 日本のスポーツ文化</p> <p>第15回 まとめ</p>	<p>スポーツ文化論</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 スポーツ文化研究の視点と方法</p> <p>第2回 近代スポーツの成立と発展</p> <p>第3回 <u>スポーツによるメディアの影響</u></p> <p>第4回 資本主義とスポーツ</p> <p>第5回 <u>スポーツと政治・権力</u></p> <p>第6回 <u>スポーツとジェンダー</u></p> <p>第7回 スポーツと身体</p> <p>第8回 スポーツと教育</p> <p>第9回 <u>地域社会のスポーツの役割</u></p> <p>第10回 スポーツの応援文化</p> <p>第11回 スポーツと文化変容</p> <p>第12回 <u>スポーツのグローバル的展開</u></p> <p>第13回 スポーツをめぐる社会問題</p> <p>第14回 日本のスポーツ文化</p> <p>第15回 まとめ</p>

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (196 ページ)

新	旧
<p>スポーツ哲学</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 イントロダクション 運営方法について</p>	<p>スポーツ哲学</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 イントロダクション 運営方法について</p>

第2回	体育か、スポーツか	第2回	体育か、スポーツか
第3回	スポーツの諸相 スポーツ哲学の射程	第3回	スポーツの諸相 スポーツ哲学の射程
第4回	体育・スポーツと人間形成: 体育原理からスポーツ哲学へ	第4回	体育・スポーツと人間形成: 体育原理からスポーツ哲学へ
第5回	課題① 読んで考え、そして論述	第5回	課題① 読んで考え、そして論述
第6回	課題② 第5回①での、他の学生による発表への建設的な批判・意見交換	第6回	課題② 第5回①での、他の学生による発表への建設的な批判・意見交換
第7回	現代スポーツの周辺①: <u>スポーツとイズム(ism)ーナショナリズムの超克ー</u>	第7回	現代スポーツの周辺①: <u>スポーツとナショナリズム</u>
第8回	現代スポーツの周辺②: <u>スポーツと競争</u>	第8回	現代スポーツの周辺②: <u>スポーツ競争</u>
第9回	現代スポーツの周辺③: <u>スポーツと暴力・体罰</u>	第9回	現代スポーツの周辺③: <u>スポーツと暴力・体罰</u>
第10回	現代スポーツの周辺④: <u>スポーツとドーピング</u>	第10回	現代スポーツの周辺④: <u>スポーツとドーピング</u>
第11回	現代スポーツの周辺⑤: <u>スポーツと報道ーその光と影ー</u>	第11回	現代スポーツの周辺⑤: <u>スポーツとメディア</u>
第12回	現代スポーツの周辺⑥: <u>スポーツとジェンダー</u>	第12回	現代スポーツの周辺⑥: <u>スポーツとジェンダー</u>
第13回	現代スポーツの周辺⑦: <u>スポーツと環境</u>	第13回	現代スポーツの周辺⑦: <u>スポーツと環境</u>
第14回	講義レビュー＋試験	第14回	講義レビュー＋試験
第15回	まとめ・振りかえり・総括	第15回	まとめ・振りかえり・総括

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (198 ページ)

新		旧	
スポーツ社会学		スポーツ社会学	
授業計画		授業計画	
第1回	オリエンテーション: 講義の概要・評価方法の説明、スポーツ社会学とは何か	第1回	オリエンテーション: 講義の概要・評価方法の説明、スポーツ社会学とは何か
第2回	スポーツとは何か: スポーツの本質、近代スポーツの誕生	第2回	スポーツとは何か: スポーツの本質、近代スポーツの誕生
第3回	スポーツと教育(1): スポーツによる社会化と規律の習得	第3回	スポーツと教育(1): スポーツによる社会化と規律の習得
第4回	スポーツと教育(2): 規律訓練的権力と <u>身体管理</u>	第4回	スポーツと教育(2): 規律訓練的権力と <u>体罰の問題</u>
第5回	スポーツと教育(3): アスリートのセカンドキャリア問題	第5回	スポーツと教育(3): アスリートのセカンドキャリア問題
第6回	スポーツと政治(1): スポーツとナショナリズム	第6回	スポーツと政治(1): スポーツとナショナリズム
第7回	スポーツと政治(2): スポーツと人種差別	第7回	スポーツと政治(2): スポーツと人種差別
第8回	スポーツと政治(3): スポーツと <u>多様性社会</u>	第8回	スポーツと政治(3): スポーツと <u>ジェンダー</u>
第9回	スポーツと経済(1): スポーツと商業主義	第9回	スポーツと経済(1): スポーツと商業主義
第10回	スポーツと経済(2): <u>メディアスポーツとスポーツの価値</u>	第10回	スポーツと経済(2): <u>スポーツとメディア</u>
第11回	スポーツと経済(3): スポーツファンと消費社会	第11回	スポーツと経済(3): スポーツファンと消費社会
第12回	スポーツと現代社会(1): スポーツとグローバル化	第12回	スポーツと現代社会(1): スポーツとグローバル化
第13回	スポーツと現代社会(2): スポーツと <u>地域コミュニティ</u>	第13回	スポーツと現代社会(2): スポーツと <u>地域社会</u>
第14回	スポーツと現代社会(3): スポーツと福祉社会	第14回	スポーツと現代社会(3): スポーツと福祉社会
第15回	まとめ: ポストモダンのスポーツをめざして	第15回	まとめ: ポストモダンのスポーツをめざして

(是正事項) スポーツ科学部 スポーツ科学科

【教育課程等】

4. <留学生の受入れ方針等が不明>

入学者選抜の概要で、留学生を入学対象者として想定しているのか不明なため明らかとすること。なお、留学生を入学対象としている場合、例えば日本語能力試験等の日本語の要件が設定されているのか、入学後の学修支援等が適切に構想されているのか、併せて明らかとすること。

(対応)

入学者選抜の概要で、留学生を入学対象者として想定しているか明記していないことを改め、本学部では基本的に外国人留学生は入学対象者として想定していないことから、外国人留学生対象の特別な入試は実施しない旨を追記する。

なお、補足として、本学他学部では外国人留学生を入学対象としているため、大学全体として留学生の受入れ方針（日本語の要件、入学後の学修支援等）を定めている。

入試においては、出願資格に日本留学試験（EJU）「日本語」を受験し、得点が200点以上（記述式を含む）の者や、日本語能力試験（JLPT）N2以上に合格し、成績を提出できる者等の日本語の要件設定をしている。

入学後の学習支援等においては、日本語の専任教授が所属し、オフィスアワーで個別に対応しているほか、グローバル教育センター事務部の専属スタッフにより、勉学面だけではなく、生活面、在籍管理も含めた支援体制を整えている。

日本人学生と同様の出願資格・方法で本学部に入学者として入学した外国人学生に対しては、大学における学修に支障のない一定の日本語能力が備わっているものと考えられるが、学修支援を必要とする場合には、全学の学修支援制度により対応することを追記し、書き改める。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (25 ページ)

新	旧
<p>8. 入学者選抜の概要 (1) 入学者受入れ方針と大学の理念・目的・教育目標 (略) <u>本学部では基本的に外国人留学生は入学対象者として想定していないことから、外国人留学生対象の特別な入試は実施しない。よって、外国人学生が本学部に入学者となる場合には、日本人学生と同様の出願資格、方法で受験をすることとなる。</u> <u>なお、入学後に学修支援が必要となる場合には、外国人学生の場合は全学の学修支援制度により、日本語の専任教授が所属し、オフィスアワーで個別に対応しているほか、グローバル教育センター事務部の専属スタッフにより、勉学面だけではなく、生活面、在籍管理も含めた支援体制を整えている。</u></p>	<p>8. 入学者選抜の概要 (1) 入学者受入れ方針と大学の理念・目的・教育目標 (略) (追加)</p>